龍蔵寺 寺報　お盆とお施餓鬼のご案内

お盆を迎える

正しくは盂蘭盆会というお盆は、我が子への愛情が、慳貪（けんどん・物惜しみ）の罪に問われ、そのために餓鬼道に落ちた母親を救い出す物語を通じ、父母の愛、特に母親への恩を子供に教える行事です。（３ページに説明があります）人には必ず両親がいます。生きていようとなかろうと、この時ばかりは集まり再会し、できなかった親孝行をする。それがお盆です。

新型コロナ感染症で、何事もなかなか思うようにはいきませんが、一方で普段は見えなかった有り難みに、多くの方が気付くという発見も多々あったようです。四六時中マスクをしていますが、気を許してマスクを外せるのはやはり家族の間だけ、たとえ感染したとしても、仕方ないと思えるのが家族というものなのでしょう。

お盆に自宅に帰ってきた仏様、霊を供養するために僧侶を呼んでお経を読んでもらうのが棚経です。今でも加須市内の新盆を迎える檀家のお宅にはお伺いし、お経を唱えてちょっと世間話をしています。遠方の新盆の方には七月の新盆法要にお集まり頂いています。

最近はお盆といっても、旅行に出かけたり、それぞればらばらに遊びに出かけたりと、過ごし方も様々です。ワクチン接種の進捗次第かも知れませんが、今年は一つ、伝統的なお盆の過ごし方を試されてはいかがでしょうか。

合掌　住職

ご自宅でのお盆の準備

毎年の事としては、お仏壇をきれいに掃除し、お盆までにその前方に盆棚を用意します。お仏壇がなければ、部屋に清浄な場所をつくり整えます。灯火は八月十三日にお寺で迎え火を分けて持ち帰ります。迎え火はご先祖様が無事に家にたどり着くための目印で、龍蔵寺では、朝六時から夕方五時まで本堂で迎え火を灯します。七月十五日をお盆とされる場合は、お寺から迎え火を持ち帰れませんので、一層真心込めてお灯し下さい。

盆棚の一例
各家に伝わるそれぞれののやり方がある場合は、そのようになさってください。
絵　浄土宗ホームページより
https://jodo.or.jp/tips/obon1/

境内の整備計画とご報告

檀信徒の皆さまのお声をお聞きし、境内の改善に取り組んでいます。施主としてご寄進されたい方は寺務所までお申し出ください。長寿の報恩、感謝、回忌法要の記念に。それぞれに記銘し、三〇万円以上のご寄進は本堂にもお名前を記し、末永く顕彰させていただきます。

会館玄関入って正面に車いす利用者用のトイレを設けます。授乳や障碍がある方の利用も想定しています。

龍蔵寺会館改修工事

去る四月十七日に世話人会を開催し、会館の改修についても報告させて頂きました。手順が前後してしまいましたが、大いに賛同頂き、五月連休明けから工事に取りかかります。七月初旬には完成予定です。

施工会社さんの見積もりは約八〇〇万円でしたが、多くの檀信徒のご寄進を頂き、着工に踏み切りました。引き続きご寄進を受け付けておりますので、ご支援よろしくお願い申し上げます。一口一万円からとなります。寺務所まで。ゆうちょ銀行への振り込みでも受け付けております。

ゆうちょ銀行　口座番号　00540-2-69092
（〇五九支店　当座　0069092　龍蔵寺）

倶会堂阿弥陀如来の光背散華

令和四年五月の開眼法要に向けて準備を進めています。ご本尊様については年内に据え付け作業を行う予定ですが、背後に木製の散華をレイアウトして、花を添えられないかと考えています。檀信徒の皆様に願い事を書いて頂き、奉納頂けると良いご縁ご供養になるのではないかと考えています。今年のお盆頃から受付を開始予定です。

その他

本堂裏の石垣工事、境内ベンチ、本堂登高座、磬・磬架の購入、ぬかるみの整地など、施主としてご寄進頂ける場合は、寺務所までご一報ください。

古佛眼山　龍蔵寺
電　話：〒三四七-〇〇六八
埼玉県加須市大門町一八-五一
寺務所：午前九時～午後四時
電　話：〇四八〇-六一-〇八五〇
Ｆａｘ：〇四八〇-六二-七九〇〇
会　館：〇四八〇-六一-〇八九二
メール：info@ryuzoji.jp
Ｗｅｂ：www.ryuzoji.jp

散華（検討中）　一枚一枚裏側に、檀信徒の皆様に願い事を書いて頂いて奉納頂けないかと考えています。

新盆供養施餓鬼木札開眼法要

七月十一日十四時開式

七月十一日（日）十四時から盆施餓鬼木札の開眼法要を行います。

新盆を迎える檀信徒で、棚行の供養ができない方、加須市外の方には、盆施餓鬼木札の開眼と併せ、新盆法要も執り行います。参加が難しい方向けに、昨年同様フェイスブックライブでの中継も行う予定です。当日は以下のアドレスにアクセスください。その他の方もご覧になれます。

（www.facebook.com/kazo.ryuzoji/）

令和三年のお施餓鬼のご案内

八月一日～九月十八日　受付

八月十三日は午前六時～午後五時

他の日は午前九時～午後四時

九月十九日（日）施餓鬼会法要

午前十四時～十五時

※記念の散華をお配りします。

九月十九日の施餓鬼会では木札で供養されたお施主様のお名前を仏前にて読み上げます。木札はご自宅のお仏壇や清浄な場所で一年間お祀りし、翌年お寺にお持ちください。本堂前と寺務所に古札納箱がございます。当日参列された方には記念の散華をお配りします。

盆施餓鬼の木札は、大きい方が一万円、小さい方は五千円です。特別なお願い事・ご供養をされたい場合は大きい方を選ばれてはどうでしょうか。同封した申し込み用紙でお申込ください。

受付の混雑を避けるため、盆施餓鬼木札の郵送での受付・送付も行っています。申し込み用紙と木札のお布施に梱包郵送料千円を加え、現金書留でお送り下さい。ゆうちょ銀行への振り込みも可能です。七月十一日の新盆法要にご参列された方は当日お渡しもできます。

ゆうちょ銀行　口座番号　00540-2-69092

（〇五九支店　当座　0069092　龍蔵寺）

施餓鬼木札　ご家族の供養や健康長寿など、一年の願い事をお書きになって、翌年お寺にお納めください。

切子灯籠　迎え火として本堂前にお飾りします。大工の武井さんにお願いして新調致しました。世界中の仏教国で同じような提灯が用いられています。（五月に試験的に取り付けてみました）

令和三年のお盆のご案内

今年のお盆の日程は次の通りです。

八月一日（日）

盆入り法要　午前七時～

お念仏の会と併せて執り行います。

参加自由

八月十三日（金）～十六日（月）

お盆期間

八月十三日（金）迎え火

お寺での迎え火の灯火は午前六時～午後五時です。

八月十六日（月）送り火

迎え火・送り火ともにオガラを夕方に燃やします。オガラは乾燥された麻の芯で、悪を祓い家を清浄に清めます。

お盆とお施餓鬼

お盆の行事は『盂蘭盆経（うらぼんぎょう）』というお経に、施餓鬼という行事は『救抜焔口餓鬼陀羅尼経（ぐばつえんくがきだらにきょう）』というお経に基づいたもので、本来は別の行事です。しかし、時の流れと共に、両者はワンセットの夏の行事になっていったようです。このことは周囲の寺を含め、日本中の寺で、宗派を越え、二つの行事を八月頃に行っていることによっても知ることができます。

お盆の行事はご先祖様の供養と思っている方が多いかと思いますが、正確には亡くなった父母の子供への愛情と、特に母親への恩を子供に知らせる行事です。

『盂蘭盆経』にはお釈迦様の弟子、目連の母親が餓鬼の世界に堕ち、苦しんでいることが説かれています。その苦しみは逆さに吊されている苦しみ、インドの言葉では盂蘭盆（ウラバンナ）と言います。その音からお盆という言葉が出てきています。ではなぜ、目連の母親、それは私たちの親でもあるわけですが、餓鬼の世界に堕ちたかといえば、「わが子、わが子」という愛情が、すべてに等しく愛情をそそぐ仏の目からすれば、慳貪（けんどん・物惜しみ）の罪にあたったからで、その結果、ものの得られない餓鬼の世界に堕ち、苦しむことになったわけです。しかし、親の「わが子、わが子」という愛情があったからこそ、私たち子供は健康で立派に育ったわけで、お盆のお経は、母の苦しむ姿を通じ、親の子供への愛情、あるいは親の恩を感動的に伝えています。

一方、餓鬼陀羅尼経にはこのようなことが説かれています。お釈迦様の弟子の阿難のところに焔口という餓鬼が現れ、「おまえは三日後に命がつき、餓鬼の世界に堕ちる」といいます。驚いた阿難はどうしたら良いかと尋ねると、餓鬼への施しと仏への供養をすれば、命は延び、救われると教えられます。そこから始まったのがお施餓鬼です。

盂蘭盆経では、安居の最後の日に修行僧に食べ物を施せば、母親も救われると説かれています。旧暦の七月十五日、現在の八月頃がこの日にあたります。

お盆もお施餓鬼も、餓鬼を救うということをテーマとしています。ただ、前者は父母、先祖を救うことを、後者は自分の命が救われるというところに違いがあるということです。やがてこの二つの行事は、餓鬼に施し、仏を供養すれば、父母や先祖の救いと自分の命の延命が実現できるという考えにまとまり、いつの頃からかワンセットの夏の行事として定着し、今日まで続けられています。

改めて父母・ご先祖様の恩に感謝し、他者への施し、慈しみが自分たちの健康や幸せの因縁であることを感じて頂ければと思います。

八月十三日のお盆の迎え火

お施餓鬼と一体化した為、棚には餓鬼陀羅尼経にある五如来様